

第31期社会教育委員の会議

第7回定例会

令和8年3月30日

【１】開催日時

令和８年３月３０日（月）１８時３０分～２０時３０分

【２】開催場所

教育会館３階 研修室「ぎんが」

【３】出席委員

井上委員（議長）、毛利委員、近藤委員、佐藤委員、村内委員、新海委員、豊田委員

【４】出席職員

教育委員会事務局

平原生涯学習課長、御園生社会教育担当係長、

山本社会教育係係員、開発社会教育係係員、佐藤社会教育係主任

【５】傍聴人

無し

【６】次第

１ 第６回議事録の承認

２ 議事

モデル事業の振り返りと今期のまとめ

○全体での意見交換

その他

（１）来期について

午後 6 時30分開議

○議長 ただいまから第31期社会教育委員の会議の第7回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、堀井委員、今宮委員から御都合により御欠席の連絡をいただいておりますので御報告いたします。それから、事情があつて遅くなる方もいらっしゃるようであります。

では、議事日程に従い進めさせていただきます。

まず、第6回議事録の承認でございます。事務局より事前に連絡がありました。皆さんには御確認いただいていると思いますが、改めて修正箇所等がありましたら、この場で申出いただき、皆さんと確認していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大きな問題がないようでしたら御承認をお願いいたします。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、この会議終了後、毛利委員と吉田委員、もしいらっしゃらなければ、また別の方に署名をしていただきますようお願いいたします。あわせて、今回の議事録の署名については、佐藤委員と近藤委員にお願いしたいと思っております。もし近藤委員がいらっしゃらない場合には、豊田委員、お願いいたします。

また、いつものことですが、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より議事録の完成版が配付されることになっております。

では次に、議事(1)モデル事業の振り返りと今期のまとめについて移ります。本日が第31期社会教育委員の会議の最終回となります。本日は、先月行われましたモデル事業についての報告と、モデル事業に関するアンケートの集計結果、その報告、また概要の考察について、事務局から説明をしていただいて、モデル事業の振り返りと、今期のまとめをしてまいりたいと思います。

では、まず事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、私のほうから説明をさせていただきますので、お手元の資料2を御用意いただければと思います。カラー刷りのものでございます。

第31期社会教育委員の会議事業報告ということで、読ませていただきます。

第31期社会教育委員の会議では、2年間にわたり、ミドル世代（主に30、40代）がどうすれば区や地域に関わることができるのかについて、協議を重ねてきた。その結果、このたびミドル世代を対象としたモデル事業を試行的に実施し、参加者のニーズを収集した。

得られた知見は、今後の社会教育行政の施策に反映してまいります。

「反映に反映して」は「反映して」に修正していただければと思います。こちらは、今日、説明させていただいて、問題がなければ区のホームページ、社会教育委員の会議のところに掲載する予定でございます。

事業概要です。事業名、30・40代のための体にやさしい大人の“おうちごはん”講座ということで実施いたしました。日時、会場は御覧のとおりです。参加費は2000円。

参加者は12名です。当初は20名の応募があったんですが、当日8名欠席、そのうち半数は連絡がありませんでした。残りの半数が、体調を御本人が崩されたり、あるいはお子様が崩されたということで欠席の御連絡をいただきました。

講師は、ミレイさんという料理教室主宰の方をお願いいたしまして、主に講義と調理実習、そして試食と交流タイムの三本柱をお願いいたしました。

本日の講師は、二子玉川で料理教室「MIREIN（ミレイン）」を主宰していますミレイさんを迎え、明るく楽しく簡潔に教えていただきました。ミレイさんのお着物は何とユニホームだそうです。ふだんからお着物を着て教えているということで、料理教室の際はいつもこの格好で行っているそうです。

裏面に行きます。まずは、ミレイさんによるデモンストレーションです。本日の調理実習のメニューはこちらです。「蓮根と肉団子のスープ」「鶏と舞茸フリットのサラダ」「蕪と白木耳の炊き込みごはん」ということで、いよいよ調理実習です。

3つのグループに分かれて、協力しながら作っていきます。皆さん声をかけながら手分けして和気あいあいとした雰囲気の中で調理を行いました。

当日は、議長、それから佐藤委員、近藤委員にもお越しいただいて、佐藤委員と近藤委員には中に入って一緒に調理をしていただきました。

それでは、次のページに行きます。限られた調理スペースでしたが譲り合って調理し、見事完成しました。こちらが出来上がりの写真です。3品です。

おいしくいただいた後は、質疑応答とまとめです。皆さん真剣な眼差しでまとめを聞いて、家でも作れるようメモを取る方もいらっしゃいました。

参加者の声です。これは抜粋でございますけれども、とても丁寧に教えていただき感謝しています。明日から料理を作ることが楽しみにになりました。もっと学びたいと思います。

とても明るい先生で楽しく調理を行うことができました。自分ではふだんしないような調理方法などを教えていただきとてもためになりました。

薬膳に興味を持ち、ミレイ先生のインスタグラムをフォローしておりました。丁寧かつ簡潔で非常に分かりやすく日常生活に取り入れやすい講座でした。

ということで、もう既にミレイ先生のファンというか、インスタグラムを拝見して、講師のミレイさんにもぜひ今回のモデル事業をアップしてくださいというお願いもしていたので、その関係でお申込みがあったということです。

それから、一流のプロの料理人に教えてもらう機会は貴重です。とてもおいしいレシピ、ありがとうございました。

身近な食材で簡単に作れるレシピを教えてくださいましたので、とてもよかったです。生で食べたことがなかった春菊やネギもおいしかったです。

こちらのページの小さい写真を御覧いただくと、講義の会場と、その奥が調理場です。1枚目の裏面が調理実習の会場です。当初、講師と打合せをしたときに、30名だったらできますよということだったんですが、先ほども言ったように申込みは20名あったんですが、無断欠席も入れて当日8名欠席の12名で行いました。それでもこの調理場、キッチンに30人いたらちょっと狭くて、12名がちょうどよかったのではないかと思います。当日は3つの班に分けて行いました。

こういう形で事業報告を作らせていただきました。

取りあえずアンケートの説明もさせていただいて、皆さんから御意見をいただければと思います。

続いて、資料3です。第31期社会教育委員の会議モデル事業に関するアンケート集計概要・考察でございます。

目的は、モデル事業を通してミドル世代（主に30・40代）へのニーズを把握するためとということで行いました。

事業名は、先ほど言った講座名です。対象者は12名。

アンケートの実施方法は、講座終了後による配布・回収です。その項目としては、大きく3つに分けておりますが、(1)回答者の属性、(2)本講座について、(3)今後についてということで行いました。回答は、選択式及び自由記述式によるものでございます。回収率は12人からということで100%です。

結果の概要は次のページからとなりますので、おめくりいただきたいと思います。

まず、Q1 性別・年代・職業ということを見ていただくと、参加の割合は40代後半が5人ということで一番多く、次いで30代の順となっています。細かく分けておりますので、

30代前半と30代後半を合わせると4人でございます。

それから、上の段の「会社員事」というのは会社事務員、「会社員技」というのは技術職です。それから、会社員のその他、公務員、パート、アルバイト、専業主婦となります。

続いて、Q2 性別・年代・居住エリアということで、居住エリアでは統計の半分である6名が世田谷地域で一番多く、次いで、玉川、烏山の順となっております。

続いて、Q3 性別・年代・家族構成ということで、家族構成では、50代以外の年代の「自分のみ」が総計の12名の半分となっており、6名となります。よろしいでしょうか。

次、(2)本講座についてということで、Q4 講座をどこで知りましたかということで、情報源では、30代にはオンラインが有効であり、40代以降はオフライン、紙も併用して行うと効果的ではないかと思っています。御覧のとおり、30代前半、後半は、講師のSNSでしたり、区のホームページ、区SNSを御覧になってお申込み。それから、40代以降は、お1人が区のホームページ、50代で区SNSという方もいらっしゃいますが、基本的にはチラシ等々が主な方たちとなります。ですから、今後は30代にはオンライン、40代以降はオフラインということで、併用して行っていくことが大事になってくるのではないかなと思っています。

次、4ページです。Q5 参加動機を教えてくださいでは、どの年代も、健康的な食事のヒントを求めていることが数字から見てもお分かりかと思います。次いで、簡単レシピを作りたい、薬膳茶に興味があったという順となっております。

続いて、Q6 土曜午後の開催について教えてくださいでは、参加者からは、12名中10名と非常に高く支持されているということです。特に30代後半、40代後半では顕著に数字に表されています。

次、Q7 御希望の時間帯を教えてくださいでは、30代後半、40代後半では日曜午前、日曜午後のニーズが目立っております。そのほか、Q6 同様に土曜午後に支持している40代後半、50代後半、60代以降の方が目立っています。下の米印のその他で、「30前」というのは「30代前半」、「40後」というのは「40代後半」を表しております。「60+」は「60代以降」を表しております。

続いて、Q8 本日のメニュー3品について満足度・家で作りたい度を5段階で教えてください。満足度、スープ・サラダ・ごはん、作りたい度、スープ・サラダ・ごはん、いずれも5点満点という形です。先ほども言ったように、スープは蓮根と肉団子のスープ、サラダは鶏と舞茸フリットのサラダ、御飯は蕪と白木耳の炊き込みごはんです。

御覧のとおり、講師のメニューの選定及び指導による影響がかなり大きかったと思いますが、40代後半の1名を除いて、全ての年代で満点の評価となっております。40代後半の方が満足度のごはんで4点、作りたい度のごはんが3点という結果で、このような形になっております。

続いて、Q9参加者の交流について教えてくださいということで、未記入の60代以降の方を除けば、全ての年代で、同じグループで交流ができたというポジティブな声が多数ありました。40代後半の方が、もっと交流の時間が欲しかったと回答がありました。調理にかなり時間を取ったこともあって、主食と交流タイムの時間がちょっと短かったのではないかとということで、40代の後半の一人が、もっと交流の時間がほしかったということが推測されます。

それから、Q10講師に対する御意見・御感想を教えてくださいということです。時間もありますので、1つずつ読ませていただきます。

まずは、気負わず楽しくというスタイルで調理技術も教えてくださり、とてもよかったです。先生の教室にも行きたいです。30代後半の女性です。

とても明るい先生で楽しく調理を行うことができました。自分ではふだんしないような調理方法などを教えていただき、とてもためになりました。

とても明るく気さくに話してくれてよかったです。知識がたくさんでした。

薬膳に興味を持ち、ミレイ先生のインスタグラムをフォローしておりました。丁寧かつ簡潔で非常に分かりやすく、日常生活に取り入れやすい講座でした。

とても分かりやすく説明して下さり、どうもありがとうございました。料理教室に行きたいと思います。

とても分かりやすい説明で時間があっという間でした。本日1日だけでなく、例えば3か月連続講座のようにじっくりと学べるコースもあるとうれしいです。

こちら40代後半の男性、単身の方ですね。当初から我々が狙っていた層の方です。ちなみに、この方は全くお料理したことがなくて、この機会にぜひやりたいということでお申込みされたそうです。

とてもおいしかったです。ポイントの写真も欲しかったですということで、レシピは当日の資料でお渡ししているんですが、その方は、ポイント、ポイントで写真があるとさらによかったという意味で書かれていると思います。

次、7ページに移りまして、薬膳の知識を入れつつ進めてくださってよかったです。

手際のよさ、御指導、レシピ等、パーフェクトによかったです。また参加を希望いたします。

一流のプロの料理人に教えてもらう機会は貴重です。とてもおいしいレシピをありがとうございました。

身近な食材で簡単に作れるレシピを教えてもらえたので、とてもよかったです。生で食べたことがなかった春菊やネギもおいしかったです。できれば調味料や道具が全てグループ分けであればスムーズだったかなと思います。

こちらは、ちょっとスペースも少なく、3つのグループ全てに同じように最初から用意ができなかったということで、こういった意見がありました。

最後です。とても丁寧に教えていただき感謝しています。明日から料理を作ることが楽しみにになりました。もっと学びたいと思います。

(3)今後についてということで、Q11講座終了後について教えてください（複数選択可）となっております。

多くの方が即時行動ということで、1週間以内に作る、作りたいという強い結果が出ております。特に消極的回答というのはゼロで、大きな成果が出たのではないかなと思っております。あと、数名の方が、1か月以内に作る予定とか、食事を見直したいとか、作って披露したいという方もいらっしゃいました。

続いて、8ページに移ります。Q12本講座のような企画に参加したいですか（複数選択可）では、絶対参加したいが全体の半数以上となっております、都合が合えば参加したいという意見も多数あって、料理講座のニーズの高さがうかがえます。

続いてQ13興味・関心のあるテーマを教えてください（複数選択可）では、全ての年代を見ても、料理教室は最も安定した人気のものになっております。特に30代後半、40代からは美容のニーズが高くなっております。そのほかは御覧のとおり結果となっております。

9ページに行きまして、Q14あなたが一番「はまっている（推し）」ことを教えてくださいということで聞いています。

旅行、フラダンス、ピラティス。

日常生活で取り入れやすい手作りにハマっていますということで、梅シロップとか、しそシロップ、味噌作りをしている30代前半の女性もいらっしゃいました。

それから、お菓子作り、ダイエット、メダカ飼育。

スポーツ栄養学、また薬膳や漢方についても興味があります。

韓国ドラマとか、無農薬野菜、有機食品等、食べることに全般。あるいは、茶道、哲学対話。ジム、料理、お酒。

それから、現在、育休中なので、家事に工夫することに取り組んでいます。キャリアコンサルタントの資格があつて、その勉強もしているというような、はまっている、推しのことを明記していただきました。

最後になりますが、Q15本区が主催する講座・セミナー等で、どのような内容のものなら参加したいですかということでお聞きしたところ、作品づくり（アート関係）など。それから、農家さんのファーマーズマーケットを定期的にやってほしいという意見もございます。

それから、本日のような料理教室があつたらまた参加したい。特に子どもも一緒ならなおうれしいと。ただ、今回はミドル世代で、しかも、できれば単身層を狙っていたので、こういった意見がありますけれども、今後もしやるとすれば、親子参加というのはなかなか挙げられないのではないかと考えております。

次に、男性でも参加できるもの、家から近く手頃な参加費、3000円以内だったらいいでしょうというような御意見もあります。

続いて、ミドル世代、特に30代は独身の方も多くいらっしゃると思います。なかなか1か所に住み続ける選択も難しいこともあるため、地域でつながることも難しいです。商店街も多いイメージなので、その地域にある個人店が講師となって実施するセミナーなどは、より身近でつながる機会になると思います。ということで、例えばクラフトビール屋さんが講師のクラフトビール講座とか、カレー屋さん講師のスパイスカレー講座などということで、なかなか面白い発想だなと考えております。あと、もう少しSNS発信を強化していただきたいですという御意見もございました。

10ページに参りまして、料理体験、スポーツ講習。情報をもっと提供してほしいです。三茶の駅に何もインフォメーションがなかったです。キャロットタワーのチラシを見るまで知りませんでした。

ということで、教育委員会だということで、駅に必ずしも貼れるわけではないので、貼れるものでしたら貼りたいところもあるんですが、そういった面では、周知も考えていかなければいけないなと感じております。

それから、キャロットタワーのチラシを見るまで知りませんでしたということで、そち

らも当日会場になったワークショップルームが4階にあるんですが、置かせていただけるところがそこだけと限定されてしまったものですから、本当はいろんなところに周知をしたいんですが、もっと周知を頑張ってというような御意見をいただきました。

たまたまチラシを見かけたのでよかったです。30代、40代の方たちをターゲットにするならば、美容やダイエット、ファッション、また出会い系はいかがでしょうか。キャロットタワーで堅い講座ではなく、イベント開催するのもいいと思います。親子の料理講座なども、子どもと、30代、40代の方が来ると思います。また、他の自治体がどんなことをしているのかも役立つと思います。近隣の大田区や品川目黒区なども参考にしてみてくださいという御意見です。

次に、人生100年時代と言われるように、健康や人のつながりになるような講座があると区民としてうれしいです。ひいては、区の活性化や、30代、40代のコミュニティ形成にも役立つかと思います。オンライン全盛の今の時代、あえて集まって何かをやることは、5年、10年後にいい影響があると思います。40代後半の男性からこういう御意見をいただきました。

次に、子ども料理教室、子どもかまど体験、子どもと防災食とか、小学校、中学校の取組なんかもあってもいいんじゃないか。あるいは、感覚遊びということで、子ども中心ということです。

ハイキングなんかもいいのではないかな。

それから、御自身ではないということですが、婚活を兼ねた料理教室、試飲セミナー等があると、活性化につながっていいと思います。それから、お茶の会、ヨガ、料理教室、読書会、こういうのもあってもいいんじゃないかこれは多分アルコールも含めてということだと思います。

それから、お料理の会がありましたらぜひ参加したいです。とても楽しかったです。ありがとうございました。リマインドメールをいただけたら欠席の人が出なかったかもしれませんということです。

子どもとともに学べるとうれしいです。また、夫もこういった講座に参加できると助かります。すてきな講座ありがとうございました。

ということで、全て終了して、アンケートの記載をお願いしたときに、実はこのアンケートはどうしてこういう項目になっているかという説明をさせていただきました。詳しくはお話ししていないんですが、社会教育委員の会議という審議会があって、そのテーマ

が30代・40代を中心としたミドル世代の方たちのニーズを取りたいのでこういう内容になっているということをお話しさせていただいて記入していただきました。また、ミドル世代とか、特に30代独身の方は多くいらっしゃると思いますというような御意見をいただきました。そういうのがないと、もしかしたらここまでの御意見というのはいただけなかったかもしれないです。

さらに、12名のアンケート集計をさせていただいて、総合的に考察すると、以下3点です。

30代、40代女性中心に、健康的で簡単、あるいは美容、薬膳へのニーズが非常に高く、また、皆さんの意見からは、親子、男性向け、スポーツ栄養など裾野を広くいただいております。それから、地域コミュニティ形成への期待も大きいのではないかと感じております。

それから、すぐ作るは、12人中11人が1週間以内に作りたいという御意見をいただいておりますので、すぐ作るは、レシピの実用性と講師の指導力を物語っているのではないかなと思っています。連続講座化と交流時間の拡充が、満足度と定着率をさらに押し上げるものと考えております。今回は単発講座、1回きりの講座だったんですが、連続講座となりますと予算の関係もあるのと、この後、また皆さんから御意見もいただきたいんですが、30代、40代中心、特にミドル世代の単身の方たちが、連続するものにどれだけ引きつけられるかといったところもありますので、そこら辺も後ほど御意見をいただければと思っています。

それから最後、広報はオンライン、オフラインのハイブリッドが有効ではないかと思っています。特に30代はSNS、40代以降には紙、施設告知等が響くと思われます。先ほども意見があったように、SNSの発信を強化して特に会場の駅周辺の施設の掲示、それから、リマインドメールですね。土曜日に実施ということだったので、今後こういうことがあれば、金曜日のうちにリマインドメールでやっていきたいと思っています。この三位一体で参加率を最大化できればいいなと思っています。

さらに、次の11ページでございますが、今後の企画・改善では、繰り返しになりますが、皆さんのアンケート調査からは、地域密着型へのアップデートということで、御意見がありましたとおり、地元の個人店、クラフトビール、カレー屋さん、といった方たちが講師になるというアイデアは非常に面白いアイデアではないかと思っています。特に行政主導の堅い講座から、まちの顔が見える講座にシフトしていくことで、30代、40代の独身層

とか移住層ですね。引っ越されてくるような方たちに地域密着を促すことができる可能性があるのではないかと考えております。

それから、こちらにも特に意見が多かったですが、健康を軸にした横展開ということで、今回のモデル事業は料理が入り口でございましたけれども、参加者の興味は、9割が女性ということもあって、料理以外にも美容、メンタルケア、ダイエットまで広がっております。これは提案でございますが、例えば薬膳とピラティスとか、美容と発酵食品など、複数の要素を掛け合わせた、単なる健康ではなく、ウェルネス的な内容を重視しても面白いのではないかと考えています。

参考までに、ウェルネスはどういうものかというのを、7つの基準があるそうなのでつけ加えております。

次に、3つ目、人生100年時代のコミュニティ拠点ということで、オンラインの時代だからこそ、あえて集まることの価値が高まっているのではないかと。これは40代後半の男性の方が言っています。金融、起業、AIなど、従来の単なる技術習得の枠を超えた大人の学び舎としての機能を区の講座にも持たせて、単に技術を習うという個別の学習ではなくて、大人の学び舎ということで、教え合ったりとか、何かサークルづくりみたいなことに発展できたらいいなと。そういう機能を区の講座に持たせて、区の活性化に直結できるのではないかと考えております。

続いて、運営面では、繰り返しになりますが、欠席防止のためのリマインドメールの送付、あるいは会場周辺での広報強化、こういったものが改善できるものと考えております。

ただ、今回12名とサンプルが少ない中での今後の企画・改善ということになりますので、こちらが全てミドル世代、30代、40代の意見を代表しているわけではありませんので、御参考までにと考えております。

簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。

○議長 ありがとうございます。今の説明について、皆さんから御意見、御感想等をいただこうと思っておりますが、最初に、この講座に当日参加されていらした委員から、いかがでしょうか。

○委員 私は喜んでというか、お料理を学びたいという気持ちがあって参加しました。私の班は4人の班だったんですけども、1人は独身の30代女性、もう1人はお子様がいる主婦の方、主婦の方が2人だったと思います。

どこで知ったの？と言ったら、先生のインスタだと言っていっちゃって、すごく人気

のある先生で、料金が安いから、この先生がこんな値段でお料理が1回習えるなら行ってみたいと思って来ましたと、独身のその人は言っていっぱいしました。お子さんを持っているお母さんは、今度は子どもと一緒に料理教室をしてほしいですと言っていて、それはちょっと違うと心の中でつぶやいていました。

あともう1人、駅を降りてポスターを見たという人もいて、駅を降りた途端にポスターを貼ってあってと、そんなことはないですか。

○事務局 駅の周辺にポスターはないですね。

○委員 どこかにポスターは貼っていましたか。

○事務局 キャロットタワーの中には、さっき言った指定されたところには、ポスターとかチラシですね。こちらのチラシです。

○委員 そうですか。それをすぐ写メして申し込んだと言っていられした。

○事務局 あとは、区の施設の関係機関には配付させていただいています。

○委員 それを見たという方がいました。

○課長 私も出ていたので。事務局がさっき言うてくださったように、目的とかもアンケートの前にしっかり説明してくれたので、そこをちゃんと理解してくださって、アンケートも真剣に書いてくださるというのがすごいその場で感じました。10分ぐらいたってもまだ書いてくださっているような人も数人いらっしゃったので、その辺では目的が達成されたのかなと。今後に生かすためにですね。ただ、やっぱり母数が少ないので、ちょっとそこは改善していかなくては、これが全ての結果ではないというところは事務局の言うとおりです。

さっきの例えば電鉄会社とかとも、もしかしたらもうちょっとコラボとかができて、ケーブルテレビとか。あと、駅は結構厳しいんですね。貼らせてくれないんです。いいもの順というか、やっぱり関係会社のほうが使われるのか、キャロットの中は、もしかしたらキャロットでやるのであれば取れるのかもしれないです。

あとは、この事業は教育委員会でやっているんですけれども、ほかの所管課、例えば観光の部署であったり、地域コミュニティの部署でしたり、そういうところもそれぞれでやっているんで連携ができればいいのかなというのは、議長とかともちょっとお話をさせていただいたところでございます。

ですから、ターゲットを絞った形でなかなか集まりも、もうちょっと集まってほしかったなというところはありますけれども、でも、これはこれなりに集計が取れて考察もされ

たなという印象です。

○議長 委員が遅れていらっしゃいましたので、本日のこれまでの流れを簡単に説明いたします。まず、2月11日の「30・40代のための体にやさしい大人の“おうちごはん”講座」がどんな様子であったかを講座の参加者にとったアンケートの結果を交えて紹介していただきました。その後、意見交換をしているのですが、口火を切る形で、当日、講座にも参加されていた委員と、課長にお話しいただきました。次に、いらしたばかりですけれども、委員も当日参加されておりましたので、ご感想やご意見を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員 来て早々、何も分からなくて言っちゃうんですけれども。私はどうしようかなと思っていてのを、私たちも入ったほうがいいよねとおっしゃってくださったので、テーブルに入れたのがよかったなと思います。御一緒に作れて、見ているだけじゃなかったの。

一緒に何かやると、コミュニケーションもちょっと近くなるからお話ができ、何でもここに来たんですかという質問をしたら、お一人の方は、自分が作る御飯がどうしてもおいしくないの、何かおいしい御飯を作りたいなと思って、おいしくできそうだったから来たんです。もう一方は、実は親しいお二人だったんです。地域が、私も近くて船橋か何かの地域の方で、多分小学校も、中学校もお子さんが同じじゃないのかなと思うんです。しいて家族構成はそんなに聞かなかったんですけれども、お子さんがいて、それで親しくされていて、おいしくない御飯しか作れないと言っていた人にその方は誘われて申し込みましたとおっしゃっていました。でも、その方は健康状態が、血圧が180だから物すごく高いんですって。すごく高過ぎる。でも、これは家族でみんな高いからどうしようもないんですとおっしゃったので、私はおかしいんじゃないかと思って、私は脳梗塞をちょっとやったりして栄養士さんについて食事改善をしたことがあったので、そのお話をしたんです。

栄養士さんに見てもらおうとかしている？ お医者さんにかかっているんでしょうと言ったら、お医者さんにかかっているけれどもそういうふうに言われたことはない、いや、遺伝ですから。治らない遺伝もあるのか分からないですけれども、そういう方でした。それで、オープンだから、油でジュージュー揚げる揚げ物ではないので、こういうことができれば油分もそんなに取らなくていいんですねとかおっしゃっていました。

だから、私が気になったのは、知り合いじゃん、すごく仲いいじゃんというのと、PTAで一緒ということは、本当にターゲットの人とは違う人たちだなと思って、それが難し

○議長 地域での活動ということを少し頭に置きながら、料理教室の活動をされているのかなと思いました。

○事務局 失礼しました。当日は4グループだそうです。

○議長 ということで、今のお話を聞かれて、お気づきの点や感想などはいかがでしょう
か。

○委員 参加費で2000円ということなんですけれども、コストは幾らかかっているんです
か。このアンケートを見て思うのは、12人ですけれども、とてもすばらしい積極的なアン
ケート結果が出ているじゃないですか。結果的にやった意味がすごくあったじゃないです
か。その手間とコスト、教育委員会内の人件費とかも含めてコストがかかっていると思う
んですけれども、全体的なコストとしては、この2000円というのはどうなんですか。

○事務局 皆さんにも以前、御説明のメールをさせていただいたかと思うんですが、講師
との打合せで幾らにしましょうかといったときに、講師の経験上2000円ぐらいが一番いい
んじゃないかということだったんです。あまり高くても来ないよね、低く過ぎると勝手に
休まれてしまうということもあって、2000円ぐらいが妥当じゃないかと。だったら3品ぐ
らい作りましょうということで、今回の3品になったという経緯があります。

それから、講師の方には20名と金曜日の段階でお願いしていましたから、多分20人分御
用意していると思うんです。1人2000円の参加費は、我々事務局ではなくて、講師にその
まま行っています。プラス謝礼という形なので、我々はそんなに負担、何か材料を集めたり
、購入したりという労働的な負担はありません。

○議長 会場費が格安だったのですよね。

○事務局 そうですね。減免ということで100%、無料になります。

○議長 会場費は無料だそうです。参加費の2000円はほぼ材料費になっているのですね。
謝金は別なので、人気講師の料理教室としては、参加費は高くはないかもしれませんね。
講師の方には、教育委員会での仕事ということで、納得の上での御協力があったというこ
とだそうです。

○委員 何が言いたいと言ったら、もっとやればいいじゃんと思って。

○議長 予算的には、こうしたことが1回できるぐらいの予算しかないんですよ。

○事務局 そうですね。ですから、アンケートにも連続講座化してほしいとか、3か月ぐ
らいやってほしいということもありましたが、そうすると本当に新規事業として予算づけ
していかないとなかなか難しいかなという気はしております。今回あくまでもモデル事業

ということで実施した次第です。

○議長 当日話をしたのは、これが地域振興課か何かであれば、こういう講座を連続してやっていくことができるかもしれないけれど、社会教育委員の会議としては、予算もないので、工夫しながらトライしてみた、と御理解いただければと思います。

○委員 感想ですけれども、初めての試みでこれだけの反応が返ってくるのは大成功だと思うんです。12人だけでも、この12人は頭から飛び込んできたファーストペンギンで、この成果は多分広がると思うんですよ。よかったですたり、さっきの友達の話もあったりとか、いろんな人を今度は誘って参加しようとか。最初だから認知度もないし、さっきの告知の話もありましたけれども、どこで告知しているのかとか、確かにいろいろ問題はあると思うんですけれども、でも、12人の人たちの分母だけでも、これだけの反応が返ってくるのは僕はすばらしいなと思って。

しかも、このアンケートの結果で、僕らが目指しているような100年時代のコミュニティー拠点だったり、そういうことを答えているじゃないですか。だから、かなり意識が高い人がこの12人の中にいると思うんです。やっぱりこういう人たちがつながっていくことが、僕がイメージしていたこの事業の最大の意味なんだろうなと思って、こういう人たちが多分人を連れてきたりとかいろいろつなげていく、コミュニティーをつなげていくということがこの事業の目的なんじゃないかなと僕は思っていたので、こういうアンケート結果はとてもすばらしいですし、予算が足りるなら、もっとできるんだったら、もっとやればいいじゃないかと。料理以外のいろんなテーマが実際に上がっていますよね。いろいろな興味を持っている人たちが、いろいろつながりをつくるというところに、やっぱり入ってくる土壤があるんだなと思いました。

○委員 私も、皆さんから出されたアンケートの御意見を見ていて、本当に意見が高い方々で、本当にやりたくて来ている方々ということで、いい御意見がたくさん出たんじゃないかと思います。ここで、何にしようかといろんな意見が出て二転三転はしましたけれども、いい提案ができたんじゃないかなと思います。

○議長 社会教育委員の会議で、ミドル世代を行政のほうに注目をしようと、その手法として今回こういう形で、ポスターはすばらしいのができていると思うし、これを見ると興味深いなと思います。ただ、そういう中で集まるという、こういうことをやれば集まるんだ、意識が高い人が集まるんだ、ターゲットは独身ですけれども、独身の方も集まるんだというのは分かりましたので、これはこういう事案として、またそういう部署に持ってい

って、世田谷区の行政に、こういう手法が成功しているよということをほかの部署にもアピールすれば、それは我々の成果の一つになるんじゃないかと思います。本当に皆さんの御意見のとおり、意識の高い人が来てくれた。そういう人たちは絶対友達というか、知り合いを呼ぶだろうということではすばらしい結果ではないか。それを次のそういう担当部署のほうに、そうしたら当然予算もつきますので、こういうやり方で。

我々はこういう形で、この趣旨を最後に事務局から皆さんにお話しして、それを聞いて納得されてアンケートをしてくれているので、本当に生の意見だと思います。こういう目的で集まっている、これを媒体として集まってくれたんだけど、趣旨はこういうことだと。それに対しての回答というのは本当に生きた意見なので、何をしよう、どうしてといういろんな意見がこの会議であったので、モデル事業の1つとしては成功したんじゃないかと思います。

○委員 私も、今回参加したかったんですが、2日間あったと思うんですけども、どうしてもこの日は行けなくて申し訳なかったです。

私も三軒茶屋に住んでいるので、近くて行きたかったなと思ったんですが、ポスターは見えていないんですね。だから、見たかったなというのがありました。それが1つです。

今スマホで見たんですけども、相当高いですね。この方に個人的にお金を払うとなると高いなと思って、そういう教室なんだな、さすが世田谷区だなと思ってしまいました。

12人という参加なんですけれども、女性が非常に多かったというのがあって、男性も参加しやすいようなのがあったといいんじゃないのかなと。次回の企画の改善ということで、地域密着というのもアイデアですごくいいんじゃないかなと思いますが、目的がぶれちゃいけないのかなと思うので、やっぱりニーズを把握するということを、しっかりと今回お伝えしているというのはとてもよいのかなと思うので、そこら辺が網羅できて、どういふふうにしたらつながれるかというところにターゲットを絞るのが大事かなと思っています。また時間があったら参加したいと思っています。

○議長 ここまで、2月のモデル事業についてのお話を中心に伺ってきました。今期の場合には、前回のように答申というか、報告書の冊子を作るのではなくて、このモデル事業を報告する形にしたい、という理解でよろしいですね。

それで、資料2を見ていきたいのですが、まず、「アンケート集計の概要」をすべて出すかどうかは検討していただいて、何よりも、モデル事業の意味が分かるような組立てをぜひ、お願いしたいと思います。料理教室をやって、いい料理教室だったな、というところ

で終わってしまうと、31期社会教育委員の会議の狙いが伝わらない可能性もありますので、その点はぜひご留意ください。ただ、ポスターにしても、報告書にしても、従来の教育委員会が公民館でやるようなものとはちょっと違う雰囲気が出ている点は、今回の特色として大事にさせていただきたいです。それから、写真を使う場合には、顔が出ると困る方もいらっしゃると思うので、その点は気をつけてやっていただければと思います。

○委員 いいですか。今後なんですけれども、後はどういうふうに。

○議長 それはこれから。

○委員 じゃ、今後のところでお話しすればいいですかね。

○議長 はい。31期は本日で終了になりますので、今後どうするか、という話をみなさまにも、事務局からもお伺いしたいと思います。

では、委員からお願いできます。

○委員 このまとめなんですけれども、私は、ただ、こんなのをやった、よかったということではなく、今後につなげる課題を、もうちょっと次の期の方たちが考えられるようなものを出しておいたほうがいいかなと思ったんです。

それで、これがいいかどうか分からないですが、1つ思ったのは、ここの中にも30代、40代いないか。事務局にはいるのね。

○議長 事務局には、もっと若い方もいらっしゃいます。

○委員 せっかくこういう形で集まった方たちが御意見をたくさん寄せられているじゃないですか。私はもう70ですから、30、40代の方が何を考えているか分かりません。であれば、この中から、料理教室に参加した方から募集してもいいし、プラスアルファで募集してもいいから、実際30代、40代の方たちの企画を考えてみませんかという実行委員みたいな、企画委員みたいなのを募集してみるというモデル事業をやるとかはどうなんだろうと私は思いました。

それで、実際この方たちにも、こういうのがあるんだけどやってみませんか、これだけ御意見があるわけだから、そういうふうに募集するのはどうなのかなと思いました。

○議長 参加者の皆さんにアクセスするような情報は得ていないでしたね。個人情報との関係で、連絡先は、今回は聞いていない。

○事務局 この講座のみに使いますと。それ以外には。

○議長 今回のような講座を企画するために、集まってもらおうというようなことはできそうですか。

○委員 今の話をまさになぞるようですけれども、企画自体を30代、40代の人が考えたほうがいいんじゃないですかね。僕らの世代じゃなくてという気がします。

○事務局 今回30名のところ20名の申込みがあって、ドタキャンも含めて、実際は12名の参加ということで、これが多いのか少ないのかというところもあるんですが、しかも、12名のうち1名が男性で、11名が女性ということなんですね。ですから、料理教室、料理講座みたいなものをやれば、多分30代、40代中心とした人たちは集まるであろうという見立てはできると思うんです。ただ、それでいいかというところも1つあると思うんです。

ですから、先ほど委員が言われたように、今回12名の方たちに、何人手を上げるか分からないですけれども、やってみませんかといったら、継続して料理講座がいいですとか、あるいは美容がいいですとか、ピラティスみたいな体を動かすものがいいですとか、女性中心寄りのものになる可能性は高くなるのではないかなと思います。

ただ、個人的な意見というのも変ですけれども、私はやっぱりミドル、シングル、男性、ここが一番集まりにくいんじゃないかと思っているので、そこを集めるためにはどうしたらいいのかというのは、また、皆さんからお知恵をいただきたいなとは思っています。

○委員 今回参加した人たちに、企画を一緒に考えてくださいというのはできないんですか。

○事務局 できなくはないです。

○委員 楽しい思いをして帰ってもらったわけですよね。これだけのアンケート結果があるんだから。同じような企画を一緒に考えましょう、同世代の同じような環境の人たちの。それで広がるというのは、これは親父の会の構図なんですけれども、自分たちでやってよという、自主性というんですか。それがあると、どんどんどんどん広がっていく気がするんですね。

○委員 私の感覚からするとちょっと不満が残るというか、ミドルでシングルじゃなくても、ミドルで結婚して、カップルでもいいけれども、子どもがいる人というのはもうすごい勢いでつながるんですね。子どもが生まれた途端に、地域だったり行政だったりというのは、もうスマホでいろんな情報をお母さんたちは取っていくので。だから、シングルじゃなくてもよくて、子どものいないカップルというのが本当に行政とはつながらないだろうなと私は感じていて、だから、やっぱりその人たちをもうちょっと抽出して呼べるような、そういう人たちが来ても周りに子どもを抱えたお母さんたちがいっぱいいると、ああ、そういう会ねという諦めというか、そういうものを感じるのではないかと思うと、もっと

そういう人たちに来てください、来てくれた人にアンケートの意味を説明するよりも、それよりも前にそういう人たちに集まってもらえる企画はないのかなというのを考えてしまっています。

○委員 さっきはいい提案をしたと申しあげましたけれども、ターゲットを集めるという意味では、今回は12人来てくださった方の中の半分が自分のみ、シングルの方という形で来られたと。区の企画として、独身限定とか女性限定というのは難しいということでしたよね。だったら、多少こちらが集めたいターゲットが全員ではなくても、今回のアンケートの中で出たような、例えばスポーツ関係だったり、美容関係だったり、違うジャンルでもいいんですけれども、やっていけばやっぱり人とつながりたいと思っている人がいるという実例だったと思うので、いろんなことをやっていけばいいんじゃないかなと感じました。

○議長 方法論的な難しさもありますが、1回しかできなかった、というところもありますね。

他の方、いかがですか。

○委員 難しい……。SNSの年代と紙ベースの年代、だけれども、若い人で30代もどんだん年を重ねていけば、その人たちも紙ベースでなくなってくるんじゃないかと。その中で、SNSを通して、ある程度、独身の皆さんの健康を考えたとか、全てのイベントに関してそういうことをいっても募集は難しいんですか。そういう主題として、独身の皆さんの健康を考えた何々とか、そういう形で募集すれば、来る来ないは別として、募集の仕方だと独身の方としないとやりようがないんじゃないかと。

それか、今おっしゃられたとおり、いろんな企画をやってファミリー層も、独身の人も来て、その中で趣旨、目標をお話ししてアンケートを取って、独身の方のアンケート結果を吸い上げるというやり方、その二方向ですね。独身者に意見を取ってそういう活動をし、独身者の方、シングルの方が参加しやすい行政組織に持っていくような。

ただ、時間がかかることであろうし、当然やるに当たっては予算があるので、我々の社会教育委員の会議の範囲を超えてしまうんじゃないかと思うんですけれども、そういうやり方ができれば、どんどんやりこなしているうちに独身の方々も参加してくれるんじゃないかと。その人たちも、そういう出会いがあって結婚されるかもしれないし、そういう企画の中で。そういうことしかちょっと出てこないです。

○委員 アンケート結果の9ページとか10ページとかは、独身の人が言っているとかは分

かるんですか。

○事務局 例えば9ページのQ14、15はどちらになりますか。

○委員 Q14。

○事務局 全部記入していただいたのがありますので、例えば、旅行、30代後半の女性がシングルかどうかというのは分かります。

○委員 そこを抽出してもいいのかなと。募集は6人で少ないですけども、その人たちが何を考えているのかというのは、ちょっとは読み取れるんですよ。

○事務局 そうですね。

○委員 3ページの上のところ、家族構成で、自分のみが6人もいるの？

○事務局 6人が、家族構成は自分のみ、单身ですよとお答えになっている数字です。

○委員 これはどうやって見るんですか。配偶者と子どもが……。

○委員 配偶者と子どもが、小学生ですよ。小学生がいる配偶者。

○委員 配偶者と子どもがいる人、自分のみがここか。それで6人。分かりました。

○事務局 今回こういうチラシを作成させていただいたんですが、あまり限定もできないというのもあったり、限定し過ぎて人が来なかったらどうしようということもあって、ただ、やっぱりある程度は限定ということで「30代、40代のための」というところを入れさせていただいた。それから、「からだにやさしい大人の」と「大人の」というところも入れてみました。

また、こちらのリード文でも、「仕事もプライベートも忙しい皆さんへ」ということで、必ずしも単身ではなくて、先ほど委員が言われたように、夫婦とかペアかもしれないけれども、お子さんがいらっしゃらないというところも含めて来ていただけるといいな、食をきっかけに、簡単なのに満足度の高い大人のおうち御飯を身につけませんかという呼びかけなんですね。それで、来て幾つか学んだということで、今度は誰かに振る舞いたくなるんじゃないかという思いも込めて、そうするとつながっていくであろうという気もしていたんですが、御覧の結果ということになります。

それから、余談ですけども、20名のお申込みで、事前にキャンセルもありますから実際には24名ぐらいかもしれないんですが、30代、40代とっているんですが、50代、60代の方たちのお申込みもありました。でも、定員以上なった場合は、締切り前ですけどもお断りさせていただくこともありますよということはお伝えしたこともありました。

ということを見ると、我々はミドルの30代、40代を中心に単身の、あるいはお子さん

のいないペアの方たちを中心にとっても、こういう表記だと、どこまで調べられるかは分からないので、お子さんがいても面白そうだと思います、さっきの年齢と同じでお申込みになる人がいるだろうということがあります。だから、厳密にというのはなかなか難しいかもしれないということが今回分かりました。

○議長　今回、事務局の若手のお二人も、オブザーバーとして講座に参加されていましたが、当日の様子をご覧になった感想などをお聞かせいただけますか。

○事務局　私は、20代の後半になるんですけれども、内容としてはやっぱりいいものだったと思っているんですけれども、私が事務としてやっていたのは広報の部分をやっていて、アンケートにもありましたけれども、もうちょっとSNS使ってほしいとかそういった御意見がある中で、どうしても広報がもうちょっとできたらなというのが個人的な意見としてあります。区のSNSで今あるのが、フェイスブックと、Xと、メールマガジンですね。インスタも実はあるんですけれども、インスタというのは別の所管がピックアップした大きな行事しか載せられないような仕組みになっているので、本当はインスタとか、あと内容をもっと自由にできたら多くの人に伝わったのかなと。

内容がよくても伝え方がうまくないと届けたい人に届かないというのはすごく感じましたし、チラシも、今回まちセンとか区民センターとか、そもそも区と関わりのある人が来るような場所にどうしてもなってしまったので、内容はすごくよかったと思うんですけれども、そういう伝え方、届け方の部分がもうちょっと工夫できたらなというか、ちょっと限界を感じたところもあったんですけれども、そっちの印象が強く残りました。

○議長　広報していこうとしたときに難しさを感じた。それは、区の今の体制がちょっと古いというか、やりにくいということですか。簡単に言うと。

○事務局　仕組上、仕方ないんですが、もう少し緩くと言ったら言い方はあれですけれども、簡単にできるようになれば、もう少しいろんなことができるのかなと思います。

○議長　事務局の若手からすれば、情報を届けたいと思った層にうまく届けられる仕組みがまだ十分ではないと解釈してよろしいんですか。

○事務局　そうです。

○議長　ということだそうです。課長。

○課長　営業しないといけませんね。

○事務局　ポスターとかが、やっぱりぱっと目につくようなところに貼れると、駅とかにやっぱりできると一番いいですね。通勤のときとか、お出かけしたときとかに目につく

場所、やっぱり使うのは電車だったりするので、それができれば割と人の目に触れて、人もたくさん来るのかなとは思いますが。

○議長 駅構内などは告知のポスターを貼るのにお金がかかるんですよね。違うのかな。

○事務局 電車の中にあるつり広告は多分かかると思うんですね。ただ、駅の駅舎と言ったらいいんですか、そういうところに貼るとなると、世田谷区内だけでもいろんな部署があって、何百何千という講座を年間やっているわけです。そうすると、うちだけ貼らせてというわけにはいかないということもあったりしますので、そうすると何でもかんでもどうぞというわけにはいかないだろうということですね。

○議長 全体を統括するような、広報戦略を練るような部署というのは教育委員会にはないのですか。

○課長 それはありますけれども、うちがお願いするとしたら、例えば区の広報板ですとかに、紙媒体でしたら限られます。もし広げるのであれば、例えばキャロットでやるということになりましたら、一部財団が持っているところがあるはずなんです。地下の通路にちょっと貼る場所があるんですけれども、そこなんかはできるかなと。

あとは、例えば飲食店、今回みたいな料理でしたら、飲食店とかに何とか置かせてもらったりとか、そういうことができればまた違ってくるかなとは思いますが。ターゲットにしているような人が来るようなお店に置かせてもらえるのであればですけども。

○議長 区の公的なルートのほかにも、多分、口コミ的な情報伝達経路があって、私自身はよく分からないんですけども、そういうのもうまく使えば、そのグループというか、そういう志向性や感性を持った人たちと繋がっていくことができるのではないかなと思うのですが。

○委員 区の掲示板は私の年代はよく見ますけれども、あと乳児を持っているお母さんとかも見ますけれども、多分、働いていて忙しい方は、区の掲示板ではないですよね。インスタとかはどうなんですか、30、40だと。

○課長 インスタは今の話で、あまり使わせてもらえないみたいですね。

○委員 ねつせた！は、使える。

○事務局 そうやって決まっているものが。

○委員 ねつせた！に取材してもらうとか。

○事務局 広報広聴課の仕切りで、載せられるもの載せれないものというのが決まっている状態です。インスタグラムの運用についても、今、広報広聴課が運用方針を検討して、

まだ完全に定め切っていないというか、その検討の最中の状況です。SNS通知ということであれば、せたがやPayというのはご存じかと思うんですけども、せたがやPayのプッシュ通知という機能があって、せたがやPayアプリ内で情報をプッシュ型で送信できるという機能があるんですけども、それは商業課と調整すれば、内容審査はあるかもしれないんですけども、ものによっては周知可能かなと。

○委員 せたがやPayは、30、40代は使っているよね。

○事務局 そうですね。なので、対象としてはせたがやPayのプッシュ通知はもしかしたら効果があるかなと。

○委員 登録すればいいの。

○事務局 せたがやPayアプリを持っている方に対して、皆さん、アプリ内通知というのが来るかと思うんですけども、アプリを開いたときに通知されたり、スマホの設定で、アプリの通知をオンにしていたりすると、ロック画面中でも通知が、何々アプリからこういう通知が来ていますと出ると思うんですけども、そういう形でも出ることができるので、商業課との調整と、通知内容としてふさわしいかどうかというところで承認が通れば、そういった通知はできるかなと、今お話を聞いていて思いました。

○議長 そういう議論ができたということ自体が、このモデル事業をやったことの1つの成果だと思うんですね。こういうモデル事業を次回も必ずやらなければいけないということではないですが、社会教育の枠組みの中で、「ミドル世代で、お子さんのいらっしゃるお方々」のニーズを把握したり、情報を届けたりするにはどうしたら良いか、ということを考えようとしていたわけですから、今までにはない方法論や内容を考えていこうとしたことには、意味があったと思います。

○委員 旅行の一人様ツアーってありますよね。

○事務局 民間でということですね。

○委員 民間で。何か造語をつくったら、お一人様世田谷の町ツアーでも何でもいいんだけども、それで募集するとか。

○議長 そのほかいかがですか。特になければ、来期のことも含めて、最後に、事務局にお話をさせていただきます。

○事務局 今期2年間、本当にありがとうございました。何とか皆さんのおかげでモデル事業を試行することができました。ただ、限られた期間の中ということで、十分広報ができなかったり、それから12名という結果になってしまいましたが、これで来期、第32期に

なりますが、違うテーマで、また違うメンバーでということになると、今期何だったのかということにもなりますので、私ども事務局が考えていることは、第32期も同じようなテーマで、ミドル世代の方たちをターゲットにした事業ができないかということを考えております。

オブザーバーで30代、40代をお呼びすることはできるかもしれないんですが、委員の皆様がここで替わってしまうと最初からやり直しということもありますので、ぜひこの2年間の経験を踏まえて、できれば継続して、ミドル世代の事業をまた考えていただいて、今回2月21日ということで時期が遅かったので、例えば令和8年の年内に実施していただいて、翌年後半の1年間で十分な分析と考察みたいなことができればいいのかなと思っております。

ですから、最終的には4年間を通して、こういうことをすれば脈があるんじゃないかとか、もっと世田谷区、あるいは地域に関心を持っていただけるんじゃないかというようなまとめになっていくといいのではないかなということは、事務局としては考えております。

ですので、内容と委員の選出もできれば継続して皆様方をお願いしたいという思いがございます。

○議長 ということだそうです。ただ、予算の限りがありますので、こういう講座を来期もするとしても。回数としては1回ぐらいですかね。

○事務局 そうですね。今回みたいに2月21日ということで、比較的、年度末に近いと、予算がどれだけ余っているかということで確認ができるんですけども、あまり早い時期だと、どの程度余らせるかというのは見当がつかない場合もありますので、少なくとも今回同様の講座はできるような形では考えております。

○議長 つまり予算を確保するというよりは、年度末になると、ほかで余っているのを持ってこられる可能性があるから、それなりにお金が使えらるかもしれないということだそうです。なので、そういうことを考えないとすれば、この社会教育委員の会議はそれほどの予算はないので、何かをするとしても、限界があるだろうということですね。

そうだとすると、事務局としては、今期に1つできましたので、そういったものを来期も1回ぐらいは別の形でやって、もう少し議論を深めていきたいということのようです。

○委員 私は、せっかく教育関係の方たちもいて、やっぱり人が育つ、社会教育というか、生涯学習の人が育つモデル事業をここで生み出していくならやるのも面白いかなとは思っていますけれども、今回みたいに結局何にもないからなんでしょうけれども、リサーチをす

る事業を立ち上げて、またそれを立ち上げてまたやるというのは、なかなかちょっと、1年間に1回それをやる先がちょっと見えないかなと思うんです。

だから、できればそういう人たちが育つような仕組みとかを考えていくのであれば私も引き続き参加したいなと思うんですけれども、またこの講座をというのだと、私は自分が地域でいろんなことをやっていますから、対象は違うけれどもまたここでもやるというのだと何かと思って。もっと一步ステップアップ。

○事務局 ということも含めて、皆さんからいろんな御意見をいただきたいということです。ですから、講座を実施するということが来期の目的ではありません。あくまでも講座を通してということになります。30代、40代の方たちを対象に講座をやるということが目的ではないんですね。できれば、いっぱいそういう方たちからニーズ調査をして、今後の施策に反映していきたいということが大きな目的になりますので、何でもかんでもやればいいということではないです。

その前段の仕組みも含めて、皆さん、いろんな経験値があたりだと思いますので、そういう知見なんかもいただきながら、もっとこんなふうにして、あんなふうにしたらどうかということで意見をいただきながら、モデルみたいな形になろうかとは思いますが、今回とはまた違うものになるのかというのはあれですけれども。

○委員 だから、またモデル、そういう調査をするということなんですね。

○事務局 調査ということになると、例えばアンケート調査みたいな形になると、以前もこの定例会でもお話ししたんですが、なかなかその時間がかかるということが一番大きいんですね。費用もかかると思うんですが、時間的に、まず調査して、それを集計して分析するというのがなかなかの期間が必要となるので、調査というのはなかなか難しいので、こういう講座みたいなことをやりながら少しずつニーズ把握していくしかないんじゃないかなとは思っています。

○委員 ごめんなさい、私は行政の仕組みの問題がちょっと分かっていないせいかもしれないんですけれども、先が何に向かっているかが分かればやる気持ちが変わる、違うかなと思うんです。今回は1回目のニーズ把握をして、これだけの意見とか、この成果を得て、次の年度は、またもう1回それをやってみる。これで今年が2年目で、4月からが新しい期でもう2年あるんですよ。そうすると、1年目にまた調査をして、それがその先どういう状態で行政が、その先がちょっと分からないんです。最終的に予算を取るとか組織を新しくつくるとか、その先どういうことを考えていらっしゃるのかで気持ちが違うかなと

思うんです。

○事務局　今回初めてのミドル世代を対象としたモデル事業というのは、何とかこういう形でできて、人数は少ないなりにアンケートでいろんな意見を集約できた。ただ、これで全てかというところではないと思うので、来期の2年を通して、もう少し違った内容でやっていって意見を聴取したいなと思っています。その先に、例えば令和10年ぐらいに新規事業みたいな形で反映できれば、令和9年度中になりますけれども、次年度に向けての予算計上をしていかなきゃいけないなとは思っています。

○委員　2年目のときですね。

○課長　今また提案というか、調査というところに絞ると、さっきの広報戦略とかそういうところで、広報広聴課のほうで区政モニターアンケートというのをやっているんですね。それが抽出調査なんですけれども、母数は12とかではなくてもっと大きいですけれども、こちらがこういう質問をしてもらいたいというのを提案して、それをまとめてくれると思うんですけれども、それが多分もう令和8年度の調査には間に合わない、もう締め切っていると思うので、もしそれを使うのであれば令和9年度実施に向けて、令和8年度中に申し込むというのだったら、そういう調べ方もできると思います。

○事務局　令和9年だと、場合によってはモデル事業が終わった後になってしまうので、今後の参考にはなるかなとは思いますが。母数は全然違いますので、多分何千単位という形で。それでも、回答率は30とか40%ぐらいになってくるのかなと、そんなに高くはないと思うんですね。

○議長　先ほど、事務局から、この期の成果を受けて、来期、もし委員の構成がほぼこのままでいくとして、1年目にもう1回何かモデル事業をやって、2年目にそのモデル事業をもとにして新しい事業として展開していくようなことを考えていきたい、というお話がありました。それに対して、それはどうかという御意見が委員からありました。そのあたりについて、皆さんいかがでしょうか。

先ほどの、委員のお話の中で、「そういう人を育てたい」というワードがあったんですけれども、「そういう人」とはどのような人なのか。

○委員　課題を持っているというのは、その課題を持っているらしき御本人たちが集まってどうするというのをやらない限り変わっていかないかなと思っていて、ここのメンバーがその年代でもないし、シングルでもないのに、何をしたらその人たちが集まるだろうとか、何かそういう先々の生涯学習につながるようなことがやれるだろうかと、ここで話

している分にはちょっと違うかなと私は思っているんです。確かにいないかもしれないけれども、もしかしたらいるかもしれない何かやってもいいかなという人たちがいれば、同じ年代の同じシングルの人たちがいれば、その方たちが考えながら育っていく場をここで考えるなら、私は参加したいなと思ったんです。ちょっと難しいかもしれないけれども。

○事務局 そこがなかなか難しいところではあるんですね。例えばそういう方たちを集めて座談会みたいなことをさせてといったときに、そこに集まるかということなんですね。ですので、あえて今回は料理講座ということを媒体にしている。だから、ストレートで本当は投げたいところなんです。ただ、ストレート過ぎてもなかなか集まりにくいだろうということもあったものですから、前にも御指摘いただきましたけれども、30代、40代のミドルの方たちに響くようなものということで、こういう形にさせていただいたということです。

○委員 私は、もし今度するとしたら、そういう何かで募集したとしても、次の段階があるそういうものをやればいいかなと思うんです。本人たちが、集まった方たちが何か企画をやっていけるそういうもの。

○事務局 なので、そういったことも含めて、皆さんからいろんな意見をいただいて、練っていただくというか、つくり上げていただきたいなとは思っているんですね。そのまとめを我々がどういう形で具現化していくかということだと思うので、まずは、その中身も含めて、もっと言うと前段、今、委員がお話ししたように、どこから5人でも10人でも対象になる人を集めて、それで一緒にやったほうがいいんじゃないのというような皆さんからの意見であれば、そういう形でもいいかと思うんです。

事務局にはなかなか発想し得ないものも皆さんの経験からいろいろあろうかと思いますので、今回また2年間通じて、もっとこんなふうにしたらどうか、こんなふうに変えたらどうかというのをどんどん出していただけるといいのかなとは思っています。

○委員 私は次の段階を考えているということだけなんです。そうするのであれば、来年度、何かそういう講座、モデル事業を考えるのも気持ちがちょっと。

○事務局 モチベーションも含めて。

○委員 もうそれは全然違いますよ。

○事務局 そういったこともぜひこの場で御意見をいただきたいと思います。

○委員 例えば親父の会の構図で盛り上がる時のパターンの典型なんですけれども、自分たちのイベントをやるじゃないですか。それに参加してくれた人たちがとても喜ぶ、楽

しかった、だから今度一緒にやろうよと。それで仲間が集って、大きくなって盛り上がっていくわけですよ。その構図を考えたときに、今回12人だけれども、参加者の意見としてはとても評価が高かったわけですよ。この人たち世田谷区として、ミドル世代に、あなたたちの世代のような人たちにいろんな取組をしたいと思っている、どういうことをやればみんな受けると思うか、一緒に考えてくださいといって、この会議にオブザーバーとして呼んで意見を聞くとかはできるんですか。

○事務局　できなくはないです。できなくはないですけれども、さっきも言ったように、いただいている個人情報はこちらを限定にということになるので、できなくはないですけれども、何人集まるかということもありますけれども、絶対できないとは言い切れません。

○委員　このアンケートの結果を見ると、今後こういうことをやっていきたいと思っているので協力してくれないか、意見を聞きたいんだけどもといったら、結構来ると思いますが。

○事務局　それなりに来ると思います。ただ、気をつけなければいけないのが、さっきも言ったように、12人中11人が女性なんです。ということになると、女性に偏ったものになってくる可能性もありますので、それでもいいじゃんということであればと思うんですが。今回やっぱり男性が少なかったんで、男性も含めてもっとそういった内容のものにしていこうなのか、とにかく集まることが大事だから、男性、女性関係なく集まるためのものを何かやりましようなのか、そういったところも含めてぜひ考えていただければと思っています。

○委員　僕が思うのには、最初から満点を目指さなくていいと思うんですね。トライ・アンド・エラーで、こういうことをやってよかったから、それをステップにしてこういうことをやろうとか、こういうのをやってみようで、最初から100点というか完璧というのは、新しいことをやるには何でもそうだと思うんですけれども、それでいいんじゃないかなと思うんだけど。今回の結果を見て、そこでうまくいったいい評価が出ているんだから、来年度はまた違うことをやってみて、そこで同じように意見を聞いてみて、一番大事なのは、参加者の喜んでくれた人たちが自主的に、その会に参加してくれるとか、人を誘ってきてくれるとか、そういうことが会の評価が高ければ自然に起こると思うんです。

それが多分、一番このミドル世代にやりたいことというか、そういうコミュニティーをつくっていくということがこの会議の一番やりたい、僕はそれが一番大きな趣旨だと思っているので、そういう構造に向けて、この第一ステップを踏まえて、来年度、新しい期は

どうしますかということをやっていくステップができたんじゃないかなと、僕はこれを見て思いました

○事務局 今回、2時間半で3品、料理講座を実施したわけなんですけど、さっきも言ったように、やっぱり料理の時間で取ってしまった。なので、試食と交流、これは同じ時間なんですけれども、そこにやっぱりもう少し時間があってもいいんじゃないかとは感じています。なので、お一人の方はもっと交流の時間がほしいよといったところはそういうことなのかなと思っていますので、もし皆さんが来期もモデルみたいな形でということであれば、2時間半が長いのか短いのかとか、それから、今、委員がお話しされたように、次回集まった人たちでまた何かができるような仕組みみたいなことを考えるのも手かなとは思っているんですね。そのために、どういう告知の仕方がいいのかとか、どういう手段とか手法だったらいいいのかとかをぜひ考えていただきたいなと思っているところでございます。

○議長 委員、いかがですか。

○委員 ミドルシングルの方ですとか、カップルでも子どもを持たないカップルですとか、そういう人たちが行政とつながって、行政とつながると地域につながっていくということは非常に大事なことで、意味がある。どんどん人数が増えていくと思うと、そこに先手を打って、この会がこうやっていくということには非常に意味があるとは感じますが、ちょっとこのメンバーでは限界があるんじゃないかなという気もします。何を仕掛けていくのかというところでは、ちょっと限界があるなという感じがしていて、もう少し若い人たち、そういう人たちの研修というか、もし本当にこれでいくとするなら、まず私たちが聞くとか、ちょっと感覚を変えていかないと限界を感じています。

○事務局 私、勝手に1年目はモデル講座、2年目はアンケートの集計、分析、考察と言いましたけれども、別にそこに固執しているわけではありませんので、モデル事業の前に、例えばそういう世代の方たちをこの会議にお呼びすることができれば、そこでいろんな意見を聞きながらモデル事業を組み立てていくこともできるんじゃないかなと思いますので、まずは広く考えていただいて、あまり制約というふうに思わなくてもいいのかなとは思っています。

○議長 どういう人にお声がけして集まってもらうか、は難しいですね。

○事務局 そこがなかなか難しいですけれども。区内に人はいると思うんです。

○議長 委員、いかがですか。

○委員 私もつながりは、私は世中P会長だったということでこの会議に呼ばれているので、私の知り合いはほとんどPTAの関係と、あと自分でやっているバレーボールの関係者ぐらいしかいないんです。なので、やっぱりターゲットにしたい方々とつながっている方がここにいらっしゃれば、御紹介とかという形でもいいと思うんですけども、本当に地域とか団体とかいろいろあると思うんですけども、どこから呼んでくるのか本当に難しいですね。

○議長 32期のメンバーの人選については、事務局によく考えていただきましょう。委員の皆さんからも、人選等については検討してほしいとご意見がありましたので。

○委員 やっぱりそういう人たちで話したら、仲間じゃないですけども、そういうミドルの年代だったり、シングルの方だったりという人たちはやっぱり呼べるような意見というのは出てくると思うので、やっぱり私も意見聞きたいなと思います。

○議長 最初の頃に、「ミドル・シングル」について議論をするには、委員の構成が少しアッパー層ではないか、という話もいたしました。社会教育委員の年齢構成やバックグラウンドなどにもある種の偏りがあって、若い層が少ないことは否めません。そうした点は、事務局には考えていただく必要があるかもしれません。

社会教育委員の会議には、校長先生やPTA役員の経験者もいらっしゃいますので、子どもたちや子どものいらっしゃる親御さんたちについてはわかるとしても、子どものいらっしゃらないミドルなどは、そもそもあまり学校と関わらなかつたりするので、なかなかイメージしにくいところもあります。でも、そういう人たちも関わってもらえるような学校あるいは地域にしたいという思いは共通するところだと思いますので、そうしたことも含めて、来期のテーマや活動を考えていただければ幸いです。

そろそろ時間ですが、最後に何かどうしてもお話したいことがあれば、どうぞ。

○委員 4年間大変お世話になりましたが、世田谷区青少年委員会を5期10年務め上げまして、明日で退任させていただくことになります。私の後任で、会長候補の方は女性なんですけれども、後任という言い方は失礼かもしれないんですけども、世田谷区青少年委員の立場でこちらに参加させていただくのは、私の後任に女性が来ますので、そちらもよろしくをお願いします。2年間、大変ありがとうございました。

○議長 ありがとうございます。

ほかはいかがですか。特になければ、第31期社会教育委員の会議をこれで閉会とさせていただきますと思います。2年間、御協力いただきまして誠にありがとうございました。

午後 8 時23分閉会